日本語は素晴らしい

松並　侑実（初芝立命館高等学校一年生）

私は今まで日本語が嫌いだった。理由はあまりよく分からないが、たくさんの言葉がある。それだけならまだよいが、その一つ一つの語にもそれぞれ色々な意味が含まれていて難しいからだ。例えば、英語では自分のことをIというだけだが、日本語では、私、僕やおいら、俺様・・・などたくさんの言い回しがある。Youもそうだ。あなた、お前、きさま・・・などだ。とてもややこしい。

今回、夏休みの課題として改めて日本語についてじっくりと考えることができた。

日本語には、日本語独自のものがあることが分かった。開音節や膠着形態、動詞文末語順、「いただきます」「ごちそうさま」などのような挨拶だ。敬語もそうだ。英語では、Pleaseをつけたりしてるが、尊敬語はないのではないだろうか。“日本にしかない”のではないだろうか。とても特徴的である。

食事の前に日本人は「いただきます」と言う。在日外国人はもしかしたら言っている人もいるかもしれないが、多くの外国人は言ってないだろう。この「いただきます」という言葉を言うことによって、食べ物を口に出来ることや食べるものがあるありがたさを改めて感じ、感謝できるのだ。食事の後には「ごちそうさま」と言う。この「ごちそうさま」という言葉には、料理してくれた人だけではなく、御馳走になった米、肉や野菜などを栽培、飼育してくれた人に対しても感謝する言葉である、と母が教えてくれた。

しかし近年、「いただきます」や「ごちそうさま」を言う人が少なくなってきているようである。私は思う。単独世帯数の上昇と共に、こういった現象がおこり始めているのではないか、と。「いただきます」や「ごちそうさま」というような“挨拶をすることが少なくなっていく”ということは“感謝や気遣いをする機会が少なくなっていく”ということではないだろうか。

このような現象が増え続ければ、どのようなことになるだろうか。きっと、日本独自の感謝の言葉がなくなり、そうなれば敬語もなくなってしまうだろう。もうそれは日本語ではなくなっていき、日本人が喋っているだけの“ただの言葉”になってしまう。また、食べ物や人などをはじめとした、ものへの感謝の気持ちや、人を敬う心、思いやる心がなくなってしまうのではないだろうか。そういった心をもつような日本人はきっと心だけでなく、国自体も荒れ果ててしまうだろう。

このようなことを知るまで本当に日本語が嫌いだった。日本語は素晴らしい、と今は思える。日本語の奥深さは、

人と人との絆の深さを育んでいることが分かったからだ。日本語の魅力や重要性を知ったからだ。

私は思った。「いただきます」「ごちそうさま」をはじめとする日本独自の言語を大切にしなければならない、と。これからは、ひとつひとつの言葉の意味を心で考え、漢字、相手に伝えることを心がけたい。日本語の意味深さ、言葉の大切さ、感謝すること、人を敬うことや思いやることの大切さを多くの人々にも伝えよう、と心に誓った。

本当に日本語は素晴らしい。